

10月7日 No.2906

—2019年(令和元年)—  
週刊 月曜発行

発行人 阿村 勝志

昭和41年8月22日 第3種郵便物承認

郵送料 年 間 23,900円+税  
定価 1 部 本 体 509円+税

# 包装タイムズ

## THE HOSO TIMES

### —120°C冷凍庫を製品化

### ドライアイスに代わる保冷材

ADD / トライ・カンパニー



保冷材をマイナス120°C凍結でドライアイスより近い保持時間

冷却設備製造販売のエイティファイ  
①ADD、静岡興沼津市、0556・94  
3・6661と、保冷材製造大手のトライ  
・カンパニー（静岡興沼津市、0556・  
9300・7777）は、マイナス120度の  
超低温フリーザーで凍結させた超低温専用  
の保冷材を医療関係や物流業界へドライア  
イスの代替として本格的に販売していく。  
エイティファイは「ADF（エーディー）  
国内初となる100%を開発し、トライ・カ  
で駆動するマイナス120度専用の再利用が  
20度のフリーザー」20度専用の再利用が

できるプロー成型の保冷材を製品化し、9月に東京で開催された「フードエコマース」に出展、物流業界から高い関心を集めた。  
実はマイナス120度で凍結させた氷は、同一重量の市販の水、ドライアイスとの同一環境下（要冷蔵食品の管理温度10度以下）で比較したとすると、2倍強も残存する特長を備えること。さらに、外気温28度の同一環境下（冷凍食品の管理温度であるマイナス20度以下の空間温度）で、同重量（2kg）のマイナス120度専用の保冷材は、ドライアイスとはほぼ同等以上の保持時間を実現。しかも、保冷材を1kg追加すると倍近い時間を保持する。  
ドライアイスは国内では原料（CO<sub>2</sub>）の調達先が統廃合や再編などの影響で減少し、値上がりが続いている。しかも、ドライアイスは昇華するので、作り溜めはできないことから、韓国などから輸入しているという。今回、マイナス120度のフリーザーと超低温専用の保冷材を発売した西社は、血清・検体などの医療関係や要冷蔵・冷凍食品の長距離・長時間輸送でのドライアイスの代替とともに、繰り返し使用できることで環境面（CO<sub>2</sub>排出抑制）に配慮できるとして、本格的に展開していく。販売するフリーザーは10kg仕様「ADF-1411」で、3相200V仕様の「同-1420」の3機種。価格はいずれも8000円以上。